

伊達市介護者と共にあゆむ会 創立 20 周年家族介護体験発表会・講演会

伊達市介護者と共にあゆむ会
〒052-0011 北海道伊達市竹原町 4-6

助成事業の概要

第 1 部 家族介護体験発表会

毎年 10 月に開催し 2 名から 1 名の方に、介護者から介護の様子を話して頂き、感じたことや工夫など話して頂きます。介護が一人では負担が多い事を知っていただき、また聴く事で自分が介護者となった時に、参考になる事を目的としています。

今年は 20 周年であることから、初代会長（現在顧問）である那珂きよ子様から、テーマを『働きながら母を介護した私が 20 年近くなった後、介護される身になった私』と題してお話をしていただきました。

第 2 部 講演会

毎年音楽（歌・楽器）を聴いていただき、癒しのひとときを過ごしていただいています。今回は 20 周年であることから、講演会を開催することになりました。伊達市には何度も来ており、雑誌にも伊達市を紹介していただいていることから、喜瀬浩様に講演活動をしている事を知り打診したところ、講演を受けていただきました。テーマは『声は人なり』と題してお話をしていただきました。

事業の成果

創立 20 周年になりますが、まだまだ市民の皆さんに周知されていなく、20 年と言う節目の区切りの年として、改めて地域に呼び掛ける目的を含めて、一般市民の皆様呼び掛け事業を開催す

ることとなりました。平成 8 年の創立時は公的サービスがあっても、簡単に使える制度ではなく、介護負担が大きくて介護疲れをしても、誰にも言えなかつたりして我慢しか無かった時に、当会の事業は画期的な活動でした。参加者も 80 人～ 100 人と多くなり、年間の事業も参加者が多く盛り上がりました。その後介護保険制度が取り入れられて今年で 16 年になりますが、当会への影響もありました。それは介護をしている方の減少です。介護サービスの利用により介護負担がなくなり、介護の在り方が大変変わったことです。現在会員数は 50 人で介護をしている方は 7 人、施設入所の方も含みデイサービスの利用者もいます。介護負担が軽減したことは喜ばしい事と思います。しかし当会の主旨として介護をしている方の為にある会としては、介護をしている方の減少は存続の問題である事から、3 年前から会員以外の一般の方達に当会の主旨や目的を PR して入会を呼びかけました。場所・曜日を毎月定期的に、「集い」を 3 年間開催して 7 人の入会者がありましたが、介護をしている方の入会は 1 人です。20 周年を迎えるにあたり、場所・曜日を毎月定期的に、「集い」を開催している事を、もっと広め介護についての悩み、また介護をしている方だけではなく、独居の方や夫婦だけで暮らしている高齢者の方を対象にしました。気軽に話ができることや悩みなども相談できる事を強調して、今回の事業でお話しすることで、改めて理解と同意を得ることができました。介護保険制度が見直される度、在宅での重視策が言われ特養老人ホームの入所が介護度 3 からとなり、要支援 1・2 の

介護サービス利用選択範囲が、少なくなり厳しくなりました。これからますます、当会の必要性が問われると思います。

成果の広報、公表

第 1 部は初代会長 那珂きよ子様から、実母の介護体験談を話して頂き、在宅で 8 年に及ぶ介護を行い看取りまで行った話で、一人では介護は無理で自分の夫や娘、娘の子どもと、家族皆で介護を行う。また教師という職業を持ちながらの介護だったため、家族の協力なしではありえなかったとお話がありました。実母を看取った後、脳梗塞を 2 回発症し、今度は夫と娘に自分が介護される身になったお話です。那珂様の実母は視力障害であったにも関わらず、病院や施設に預けること無く、家族一人一人ができる事を担当し終末期まで介護します。娘さんやご主人の協力が大きく、いつも「有り難う」と感謝のことばを忘れないと言い、84 歳とは思えないしっかりした口調で感動的なお話でした。

第 2 部はフリーアナウンサー 喜瀬浩様から「声は人なり」のテーマで、実母が姉と一緒にケアハウスに入居しているが、息子 2 人が離れて生活しているため時々しか会いに行けず、実母の心身の状態を考えると施設にいてくれて安心して居る。実母の姉と一緒になのが良かったと話してくれました。ラジオの仕事が長く、声だけの世界であるがこの声で希望をもっていただけたり、どんなアナウンサーなのかと空想や妄想を抱いていただけたりします。時にはお手紙を頂き、声だけのメッセージで勇気をもっていただけたり、相談事も受け私の声で癒すこともあります。自分の声に責任をもつ仕事ですと話して頂きました。会場に視力障害の方が参加者しており、いつもラジオを聴いているが、その声の人が自分の前にいて、その方と握手ができ嬉しいと感激していました。人がい

言葉があるのだと喜瀬様の言葉に改めて言葉の意味を感じました。

今後の展開

20 周年の節目としての事業を終え、高齢福祉課では、平成 25 年には団塊の世代が 75 歳以上になる事から、超高齢化社会を迎えるにあたり、平成 29 年度より地域でのサロン活動の増加や、医療費を抑える事業として、健康志向型機能訓練を備えたサービス事業を開催し、お互い支え合い元気に過ごそうと言った事業を計画しています。当会も地域に根ざし、介護をしている方だけではなく一人暮らし・高齢夫婦のみの方々の悩みや、困っていることがあれば気軽に相談できる会として存続し、PRして行きます。

今後の課題として、現在開催している事業の継続と、見直しするところがあれば改正し、益々認知症が増えると言われている病名の知識や接し方は、勉強会を重ねていき、認知症の方たちとも取り組んでいけるようにします。